

農業農村支援センター

令和8年度

農業農村支援センター

1 概 況

管内の農業は、標高 760m から 1,200m に至る地域で営まれており、八ヶ岳西麓地域と諏訪湖周辺地域に大別できる。

八ヶ岳西麓地域は、県下有数の野菜・花きの産地であり、夏期冷涼な気象条件を活かし、野菜では、セルリー、ブロッコリー、キャベツ等が産地化され、なかでもセルリーは、全国トップの生産量を有している。花きでは、カーネーション、キクを中心に多品目が栽培されており、近年はアルストロメリアが増加傾向となっている。

また、近年は醸造用ぶどうの栽培が増加しており、令和 5 年 3 月には当地区がワイン特区として認定された。

また、畜産は酪農が主体で、自給飼料（牧草）を活用した畜産経営が行われている。

一方、諏訪湖周辺地域では、水稻を基幹に果菜類（トマト、キュウリ）や花き（バラ、カーネーション）の施設化、団地化が図られている。果樹ではりんごが中心に生産され、主に観光農園で販売が行われている。

（1）耕地面積

耕地面積は 5,916ha で、田は 3,339ha、畑 2,580ha となっている。

農家一戸当たり耕地面積は 121a で県平均 115a を上回っている。

市町村名	耕地面積(ha)	田(ha)	畑(ha)	農家一戸当たり 耕地面積(a)
岡 谷 市	202	72	130	45
諏 訪 市	608	399	209	72
茅 野 市	2,360	1,390	967	118
下諏訪町	56	28	28	45
富士見町	1,560	892	671	169
原 村	1,130	558	575	200
合 計	5,916	3,339	2,580	121
県	103,800	50,400	52,900	115

注）資料：農林水産省耕地面積調査（令和 8 年 3 月 19 日現在）

①原数を四捨五入したため、総数と一致しない場合がある。

②一戸当たり耕地面積の算出に使用した総農家戸数は 2020 年農業センサスによる。

※2025 年農林業センサス(市町村別)は 6 月下旬頃公表見込

(2) 農家戸数、農業従事者数、基幹的農業従事者等

管内の農家戸数は 4,905 戸で前回センサスの 84.1%であり、販売農家戸数は 2,074 戸で同 75.2%、自給的農家戸数は 2,831 戸で同 92.2%となっている。

農業従事者数は 5,286 人で前回センサスの 70.0%、基幹的農業従事者は 2,790 人で、同じく前回センサスの 70.0%であり、いずれも全県値より減少幅が大きくなっている。

市町村名	農 家 戸 数			農業従事者数 (人)	基幹的農業 従事者 (人)
	総農家数 (戸)	販売農家 (戸)	自給的 農 家 (戸)		
岡 谷 市	448 (512)	65 (79)	383 (433)	158 (215)	96 (116)
諏 訪 市	846 (982)	319 (403)	527 (579)	797 (1,054)	412 (553)
茅 野 市	1,999 (2,452)	825 (1,158)	1,174 (1,294)	2,099 (3,196)	1,050 (1,599)
下諏訪町	124 (147)	15 (21)	109 (126)	46 (56)	25 (33)
富士見町	922 (1,070)	450 (598)	472 (472)	1,127 (1,593)	557 (819)
原 村	566 (667)	400 (500)	166 (167)	1,059 (1,452)	650 (864)
合 計	4,905 (5,830)	2,074 (2,759)	2,831 (3,071)	5,286 (7,566)	2,790 (3,984)
対前回比 (%)	84.1	75.2	92.2	70.0	70.0
県	89,786 (104,759)	40,510 (51,777)	49,276 (52,982)	102,706 (137,207)	55,516 (73,467)
対前回比 (%)	85.7	78.2	93.0	74.9	75.6

注) 資料：2020 年農業センサス

①販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家

②自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満かつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家

③農業従事者数：15 歳以上の世帯員のうち、調査期日前 1 年間に自営農業に従事した者

④基幹的農業従事者：15 歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として自営農業に従事している者

⑤対前回比：2015 年農業センサスとの比較。（ ）は 2015 年農業センサス数値

(3) 令和7年の気象と農業生産状況

春先から高温傾向が顕著で、5月下旬に梅雨入りし、6月は曇雨天が多い中でも高温となり、下旬に梅雨明けした（平年比-21日）。7～8月は高気圧に覆われ猛暑が続き、9月は台風や前線の影響で天候が不安定となった。

年平均気温がかなり高く、記録的な暑さとなり、年間を通して日照時間が多かった。年降水量は、時期による変動は大きいものの、概ね平年並みか、季節により一時的に多い、または少ない傾向がみられた。

水稲は全域で、カメムシの発生が多かったものの、南信地域の作況単収指数は104で、1等米比率は93.0%となった。

野菜類では、セルリーにおける疫病や萎縮炭疽病、ブロッコリーにおけるテンサイシストセンチュウの発生が確認された。

また、花き類では、トルコギキョウにおいて根腐病や立枯病等の発生や、露地キクをはじめとするオオタバコガの食害により、収量減少が生じた。これらはいずれも、当地域の主要品目の産地を揺るがす重要な病害虫であり、重点的な対策が求められている。

(4) 農業等産出額（R5）

農畜産物の産出額は129億円であり、野菜が61億円、花きが25億円となっており、野菜、花きを合わせると算出額の6割を占める。

水産業の産出額は4億円であり、近年、諏訪湖における漁獲量が減少していることから大部分を寒天が占めている。

（単位：千万円、％）

種 類		農業等産出額	
			構成比
農畜産物	米	290	21.7
	麦・大豆・雑穀	5	0.4
	果樹	40	3.0
	野菜	610	45.7
	花き	250	18.7
	きのこ	5	0.4
	畜産	90	6.7
	養蚕・その他	5	0.4
	計	1,295	97.0
水 産 業		40	3.0
合 計		1,335	100.0

注）産出額は、県農業産出額に基づく地域振興局推計値
令和6年度産出額は集計中（8月更新予定）

（５）新規就農者の確保育成状況

県、市町村、ＪＡ等で構成する「諏訪地区就農支援連絡会」が中心になり、就農相談、就農計画の作成支援、就農後のフォローアップを実施している。令和７年度の管内の新規就農者数（４９歳未満）は９名（野菜４名、花き４名、水稲０名、畜産１名）であった。

また、円滑な就農を支援するため、新規就農里親支援事業を実施している。

最近の新規就農の状況（４９歳未満）

（単位：人／年間）

年 度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度 （計画）
人 数	８	４	１２	５	９	９

注：Ｒ４年度までは４５歳未満の人数

新規就農里親農業者登録事業・里親活動支援事業の状況

（単位：人）

項 目	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和７年度
里親登録者数	２９	２６	２５	２６	２５	２３
里親研修者数	３	４	４	４	２	５

注：各年度４月１日現在の人数